

## 事業概要書

事業名	長野県長沼地区における地域コミュニティ再建への支援				
開始日	2020年2月1日	終了日	2020年3月31日	日数	60日
団体名 (カウンターパート)	穂保被災者支援チーム				
担当者名	青木 恵	スタッフ人数	6人		

事業費総額 (税込)	4,300,000 円
CF 事業枠	300,000 円
その他資金	日本財団 1,000,000 円、赤い羽根共同募金 3,000,000 円

事業目的	台風 19 号被災地の復旧・復興に向け、各専門部隊との連携も含めたきめ細やかな支援活動により、被災住民の精神的・物理的な支えとなり、取り残された被災者「0」を目指す。
事業全体の概要	<p>● <b>台風 19 号の被害（長野市内）について</b></p> <p>2019 年 10 月 12 日に日本に上陸した台風 19 号は、関東・甲信・東北地方など広範囲に記録的な大雨を降らせ、死者 98 人、ピーク時の避難者数 200 万人、避難所数 6600 カ所以上という多大なる被害をもたらした。このうち特に被害が大きかった長野県長野市では、10 月 13 日午前 4 時頃に千曲川が決壊し、長沼地区および隣接する豊野地区、古里地区と合わせて 1000 軒以上の住宅が全壊・半壊の判定を受けた。長沼地区の人々は過去の水害の経験から住民の防災意識が高く、多くの住民が早い段階で避難したが、急な水位の上昇で慌てて 2 階に上がりヘリコプターで救出された人や逃げ遅れて亡くなった人もいた。</p> <p>人口約 2300 人の長沼地区は 4 つの地区（赤沼、穂保、津野、大町）に分かれているが、その被害はそれぞれに異なる。例えば、穂保や津野は決壊した川の流れの強さで家屋が壊れ津波の後のような被害が相次ぎ、赤沼地区は水位が高くその分土砂の堆積量が多い。このようななか、回復の度合いに地域差が出ている点も地域復旧に向けた課題となっている。</p> <p>● <b>穂保被災者支援チームとは</b></p> <p>発災約 1 週間後の 10 月 20 日から、避難所に来ていない（来ることができない）在宅避難者等に炊き出しによる食事の提供と救護物資の提供を続ける任意団体。コアメンバーは現在 6 人で、これまで支援にかかわったボランティアサポーターは 130 人（LINE グループ登録者数）。</p> <p>当初、指定避難所（北部レクレーションセンター、豊野西小学校）の運営にボランティアで関わりながら、外部からの炊き出し支援者コーディネートなどを行っていたが、行</p>

政の手が届かないところで困っている被災者が多くいることに気づき、決壊地域である穂保地区で在宅避難者や清掃作業に追われる住民への炊き出し支援をスタート。炊き出しは、ボランティアサテライトのあった高台避難公園で開始し、11 月からは被災地に近い国道沿いの利根書店に拠点を移動。避難所での配食等が 10 度以下の弁当だったせいか体調を崩す人が多いのを見て、「温かい手作りご飯」を提供すべく、栄養士などとも協力しながら徐々にボランティアスタッフを増員。活動は長沼地区全域、豊野地区にまで範囲が広がっており、「弁当はほしいが拠点まで取りに行けない」という声を聞いて 100 食ほどの個別配達をしたこともある。

また、被災者が必要とする物資は刻々と変化し、その都度 facebook（フォロワー1600 人）で呼びかけて集めた。被災住民の自活が始まった頃、お米や野菜などの食材の提供も呼びかけたところ、全国から郵送で送られ活用した。その頃から「**チームの活動は全国の善意と被災者をつなぐ活動**」という認識をするようになった。市内外の企業からの支援のほか、「泥出しはできないが炊き出しの手伝いや救援物資の整理ならできる」「半日だけなら動ける」など支援者個々の申し出にもできるだけ応える形で、「何かしたい」という思いをつなげてきた。

#### ● 取り組むべき課題と 2020 年 1 月現在の活動内容

現在以下の活動を継続しており、特にサロン活動では炊き出しを通じた食事の提供だけでなく、弁護士や建物修復支援の専門家らを招いての勉強会や復興イベントなどを開き、被災住民の要請にもとづき多様な方法で地域を盛り上げてきた。1 月中旬にスタッフ会議では、今後も長期的な視点で少なくとも 1 年は活動を続けていくことが決定している。他方、発災直後から築いてきたネットワークを通じて地域内外のボランティアとともに被災者の声に応えてきたが、それを支えるコアスタッフの負担が今後、長期的な活動を続けていく上での課題となっている。発災から 3 ヶ月が経過した今、地域の復旧に向けて大きな役割を果たす本プロジェクトの運営を下支えする支援が求められている。

- ・被災住民への炊き出しの「憩いの場」の設営（3 地区各 1 回／週）
- ・外部支援団体活動場所のコーディネート（適宜）
- ・住民主体の交流サロン実施活動促進（津野地区 1 回／週）又は援助（穂保、赤沼）
- ・被災者への傾聴による心のケア
- ・ニーズ調査シート利用によるより詳細なニーズ把握と専門部隊への情報提供でより住環境の良好化を促す
- ・各世代をターゲットにした被災住民サロン誘致の為のイベントを実施
- ・被災住民の気持ちを汲んだ、ボランティアへの感謝の振る舞いへの人員協力

#### ● Civic Force「NPO パートナー協働事業」対象内容

穂保被災地支援チームは、3 つの活動それぞれで、財団等への助成金申請をしているが、用途が限られており、特に「炊き出し」「物資支援」「サロン活動」の 3 分野の支援活動

	<p>へ横断的に関わるコアメンバーの人件費などへの補填が見込めないのが現状である。そこで、NPO パートナー協働事業では、長野市の復旧・復興に向けて大きな役割を果たし、また現在転換期にある穂保被災者支援チームの事務局機能強化の支えとなる支援を行う。</p> <p>● <b>期待される効果</b></p> <p>穂保被災者支援チームは、近い将来、地域の復旧・復興を中長期的な視点で支えていくため、現在、事務局機能の体制強化や法人化を目指しており、その正念場となる現在を支えることは、地域の復旧・復興にもつながる。</p>	
事業内容(事業種別 (コンポーネント) ごと)		裨益者 (誰が、何人)
<p>① 炊き出しの実施</p> <p>避難所となった北部レクレーションセンターや豊野西小学校での炊き出し支援を皮切りに、これまで長沼地区全域および豊野地区で、全国の炊き出しボランティアとともに、「温かい手作りのご飯」を提供してきた。<u>これらの活動を通じて培ってきた経験およびネットワークを生かして、引き続きニーズに合わせた炊き出しの活動を続け、特にコンポーネント3のサロン活動に地域住民が集まりやすいよう「食」を通じた場づくりを実現する。</u></p>	<p>被災住民300人程</p>	
<p>② 支援物資の供給</p> <p>これまで約3カ月にわたり、炊き出しテント内で支援物資を招集・供給。途中テントを増設し生活必需品や暖房器具、自活の為の援助として食材の提供も実施してきた。今後は、12月から開始した<u>交流サロンやお茶のみ会実施毎にニーズシートにて必要物資をリサーチ、贅沢品以外の物を供給していく予定。</u></p>	<p>被災住民300人程</p>	
<p>③ 地域帰還へ向けた被災住民交流サロンの実施</p> <p>・被災住民の自炊環境が整い始めた頃、連日の炊き出しを終了し、被災地3か所(穂保、津野、赤沼)の公会堂で週2回のチャリティ食事会と称したサロンと物資の配給を実施。散らばった地域住民の憩いの場、情報交換の場となるサロンを目指し、外部支援者のコーディネート、リサーチシートやヒアリングにより住宅ケアニーズの発掘、他NPOへの情報提供を実施。2020年1月からは週1回実施。</p> <p>・地域発信の交流サロンの促進</p> <p>津野地区の地域住民によるサロン活動の動きが見えないため、促進活動としてシャンティ国際ボランティア会と共同で地域コミュニティサロンの計画、実施。津野地域に近い長沼交流センター(決壊場所に設置されたトレーラーハウス)にて毎週木曜日12時~15時実施。</p>	<p>被災住民300人程</p>	

